

2016年度学校評価結果と2017年度目標

2017年4月
恵泉幼稚園

1. 本園の教育理念・教育目標・教育方針

恵泉幼稚園は、高橋誠一が、「神は愛である」というキリスト教の教えに立ち、1935年（昭和10年）に設立した幼稚園です。幼いときに、自分が愛され、守られていることを感じることができるよう、幼児の豊かな心、健康な体、考える力を育みます。生きる力の基礎を培い、子どもとともに、育ち合う園であり続けます。

【教育目標】

意欲のある子ども
思いやりのある子ども
感性豊かな子ども
感謝できる子ども を目指します。

【教育方針】

一人ひとりの個性を生かし、興味・関心に合った環境を作る
ありのままの自分が受け入れられていることを知り、遊びを中心とした生活の中で思いやる心を育てていく
自然豊かな広い園庭で、季節に触れ、美しさや尊さを感じる
祈りを通して、神様に愛され、守られ、たくさんの恵みを与えられていることに感謝する心を育てる

2. 2016年度の振り返りと2017年度重点的に取り組む目標・計画

【2016年度、重点的に取り組む目標・計画】を振り返りました。

『一人ひとりの自立への意欲を育てる』

- ・精神的(内面的)な自立として、集団生活に順応できるように、丁寧に一人ひとりに関わる。
補足：一人ひとりの個性を尊重しつつ、集団生活に於いて、他の人と助け合い、良い関係が作れることを期待する。
育ってきている家庭環境の違いや個性に応じた関わりに配慮しながら、集団生活にスムーズに順応できる自信をつけていく。
- ・生活習慣の自立として、自分のことは自分でするように見ていく。
補足：自分の身の回りのことができるようになることは、集団生活の順応を早め、友だちと遊ぶ楽しさを実感し、精神的にも安定してくることを見据えて取り組む。

・重点目標の留意点

補足：集団生活に順応するための自立は、急がすものではなく、また、画一的に指導することでもありません。子どもらしく生きる生活の中で、一人ひとりの発達に必要な準備が整うのを「待つ」教師の姿勢を大切にしていこう。

【重点目標の評価】

「一人ひとりの自立への意欲を育てる」という目標に向かうときに、望ましい行動がとれるか、身についたかを基準にすると成果を早く求めることとなります。それは、子どもたちがこれからも成長、発達し続ける存在であることが置き去りにされ、行き過ぎた指導に陥りやすくなります。それを避けるためには、「自立が促されていくような教師の配慮」が重要となります。その視点から、以下の2項目を評価対象としました。

1. 《幼児期の成長の特性をきちんと押さえた上で自立を促す》

一人ひとりの成長のペースに合わせ、本人の心身の成長の準備が整うのを支え、待つという基本的な考え方を理解し、逸脱しないように、学年や年齢、一人ひとりに応じた関わりが教師には求められます。

幼児期は身体の機能が著しく発達し、その結果、自分で成し遂げようとし始める時期です。歩く、走る、投げるなどの動作ができるようになり、指先の機能も器用になり始めます。その機能を使って、スプーンや箸を持って食事をしたり、ボタンをかけたり、身支度を整える一つひとつの動作を「自分でやりたい」という気持ちが芽生える時期になり、その気持ちに添い、発達を十分に伸ばしていくことが大切です。

このような幼児期の発達段階に合わせて営まれる園生活の中で自立が促されるように、静と動のめりはりと楽しさのバランスを考え、子どもたちがやりたいと思える工夫をし、子どもたちが諦めずに繰り返している様子を見守ります。それを根気よく支えながら「やったらできた」という達成感や成功体験、葛藤などの経験が積み重ねられるようにしていきます。

初めは教師に依存しても、助けられながらできるようになっていく過程で、自分のことが自分でできるようになっていくことを子ども自身が感じることは、園のみならず、おうちの方にとっても喜びとなります。更に家庭の生活習慣の重要性にも関心を持ち、生活リズムの見直しへと結びつくことを願ってきました。

おうちの方の学校評価からも、「めりはりのある園生活を通して、家庭でも落ち着いて椅子に座り、食事の前には『いただきます』と言えるようになった」と、良い影響をおうちの方も実感されていました。

幼稚園教育の要である教師の基本的な姿勢もぶれることなく、温かく落ち着いた雰囲気をつくり出し、成果は表れていると感じています。

2. 《子どもらしく生きる生活を保障することから自立を促す》

幼稚園では、子どもらしく生きる生活を漠然と捉えるのではなく、表現の持つ意味を導き、「子どもらしく生きる生活を保障」することを大切にしています。

子どもの力のすごさや子どもの面白さ、優しさ、ときには大人から見るとマイナスと思える言動や行動、発達過程で見せる自我の芽生え、自分の思いと求められる態度との間で揺れる葛藤、喜怒哀楽など、これらは幼児期特有の「子どもらしさ」です。その子どもらしさを安心して表現し、肯定されている感覚が大人への信頼と自分への自信を生み、子どもらしく生きることが保障された生活と言えます。

子ども時代を生きるのは子どもであり、子どもが主役である意味もここに 있습니다。その中で見られる成長にプラスな面は認め、マイナス面は、教師と一緒に考えていきます。この支えは、自分で考え、自ら変えることができたという実感が子ども自身の中に芽生えていくような、関わり方を心がけています。

このような形で「子どもらしく生きる生活を保障する」ことは、幼児期にふさわしい園生活になるので、自然に子どもたちの情緒は安定し、自己を充実させ、のびのびと過ごすし、精神的な自立をも促していくことに繋がっていくと改めて捉え直すことができました。

生活習慣の自立が、園生活への順応に繋がることも実践を通して確信していますが、順応にも一人ひとりが必要とする時間やペースがあることを、心に留めておかなければなりません。幼児期に人と親しみ、支え合う経験や愛された実感は、人と関わることを楽しみ、一人で生きる社会ではなく、支え合える関係を大事にできる社会に繋がっていくものであると信じます。また、子どものより良い成長を願う心にあるものは、愛情です。家庭の団欒、幼稚園の団欒が子どもたちの自立には欠かせないということも、私たち大人は忘れてはならないと思います。

恵泉幼稚園はこれからも子どもの「人」としての全体性を尊重し、将来に渡り、自ら健康的な生活を選び、心豊かな人間となることを願い、今は花を求めず、根っこの教育に励んでまいります。

【2017年度、重点的に取り組む目標・計画】

- ・自分でやってみようとする「意欲や態度」を育てる。(育ちの連続性から見て)
補足：自分の身の回りのことができるようになり、自信をつけた子どもたちの力を、今後の園生活や様々な活動に進んで取り組もうとする「意欲や態度」に繋げ、自分を信じる気持ちに結びつけられるように関わっていきます。
- ・幼稚園全体に流れる、落ち着いた、ゆったりとした雰囲気大事にした教育を大切にする。

3. 学校評価結果の取組み

| 評 価 項 目 | 取 組 み 状 況 |
|--|--|
| 「おうちの方の学校評価」を実施。評価項目別に採点を集計し、自由記述の意見をまとめました。 | 意見を参考に、幼稚園の環境や教育活動を振り返り、改善点を見出しました。 |
| 教員の自己評価を実施。 | 「教員自己評価」をもとに、子どもとの関わり、おうちの方との連携、教育の原点を見つめ直し、良い点は伸ばし、不十分な点は改め、新年度、向上していけるように努めます。 |